

新刊紹介

長谷川正浩編著『寺院の法律知識
——適正な運営と紛争の予防——』
(新日本法規出版、2012年)

松波 克英 (弁護士)

本書は、全日本仏教会の顧問弁護士を長年務めておられ、当学会の理事でもある長谷川正浩弁護士の編集にかかる実務書である。平成6年に出版された同朋舎の「寺院運営の法律入門」を、本間久雄弁護士、秋山経生弁護士も加わって、リニューアルされたものである。

本書は、寺院を運営する上で必要となる法律知識をわかりやすく解説している。宗教法人法だけでなく、墓地・埋葬等に関する法律や、宗教法人に対する税法についても解説されている。

本書の特色は、実務に役立つ内容が一冊に満載されているという点である。寺院運営にあたっての一般的な事項が網羅的に触れられている上に、税金についても、寺院と税金の章を設け、法人税、所得税、消費税だけでなく、固定資産税、都市計画税、不動産取得税、登録免許税、印紙税などについてもきめ細かく解説がなされ、税務調査への対応についても触れておられる。また、保険の専門家の協力を得て、寺院に関する保険についても解説されている。さらに、寺院が行う事業についても解説がなされ、とくに墓地（納骨堂）経営やその法律上の問題点については詳細である。

本書では実務書にふさわしく、備付書類のひな型、議事録など、寺院運営に役立つ「書式」が豊富に掲載されている。また、「事例」「実務Q&A」が豊富に掲載され、判例などを基にした具体的な対応が解説されている。「コラム」では、寺院に関する豆知識を紹介していて非常に興味深い内容になっている。

本書は、寺院の住職はじめ寺院運営に携わる者だけではなく、他の宗教関係者にも有用であると考えられる。